

## 計画構想・概要（調査研究）

- 課題分類 「ライフサイエンスやナノテクノロジー等の先端科学技術が社会に与える影響の調査研究」
- 課題名 「先端医科学の認知に向けた社会的基盤調査」
- 代表者名 「 村上 孝 」
- 中核機関名 「 自治医科大学 」

### 調査研究の目標・概要

#### 1. 目的・目標

欧米では先端科学の推進に対する社会的要求性と同時に、その波及効果について活発な論議がなされている社会背景がある。ライフサイエンスを中心とした我が国の先端科学技術は欧米に匹敵する一方で、それを受け止める社会的論議が欧米ほど十分になされていない。そのため実際の研究者と市民との間で意識や理解の違いが生じ、先端医科学に対する社会的信頼性が損なわれかねない事態に直面している。本研究では、研究従事者と一般市民を対象に、先端医科学の運用にかかわる指針の理解度の把握を各分野の若手タスクフォースが調査研究を実施し、指針の見直しの際の意見の抽出を行う。

#### 2. 内容

科学技術の急速な進歩は、医療、医学領域において今までの規範や常識では対応不能な事態を予見させている。これらの事態に対応すべく、研究指針が策定され、また関連学会などによる提案も数多くなされているが、指針の精神が実際の医学研究者や一般市民に十分に理解されず、具体的に機能しているとはいえない。また、それぞれの指針自体には見直しの必要性が明記されているが、研究の進歩や社会の変化に即した具体的な提言が必要とされている。これらの問題の解決には、現役研究者や市民の意見を積極的に反映するための社会基盤調査が必要である。本研究では、研究者、医療従事者、市民へ積極的に近づき、指針内容とその精神についての正しい理解を追求し、現実の運用状況を把握することによって、今後行われる指針見直しへの調査を実施し、総合的な提案を行うものとする。

#### 3. 実施体制

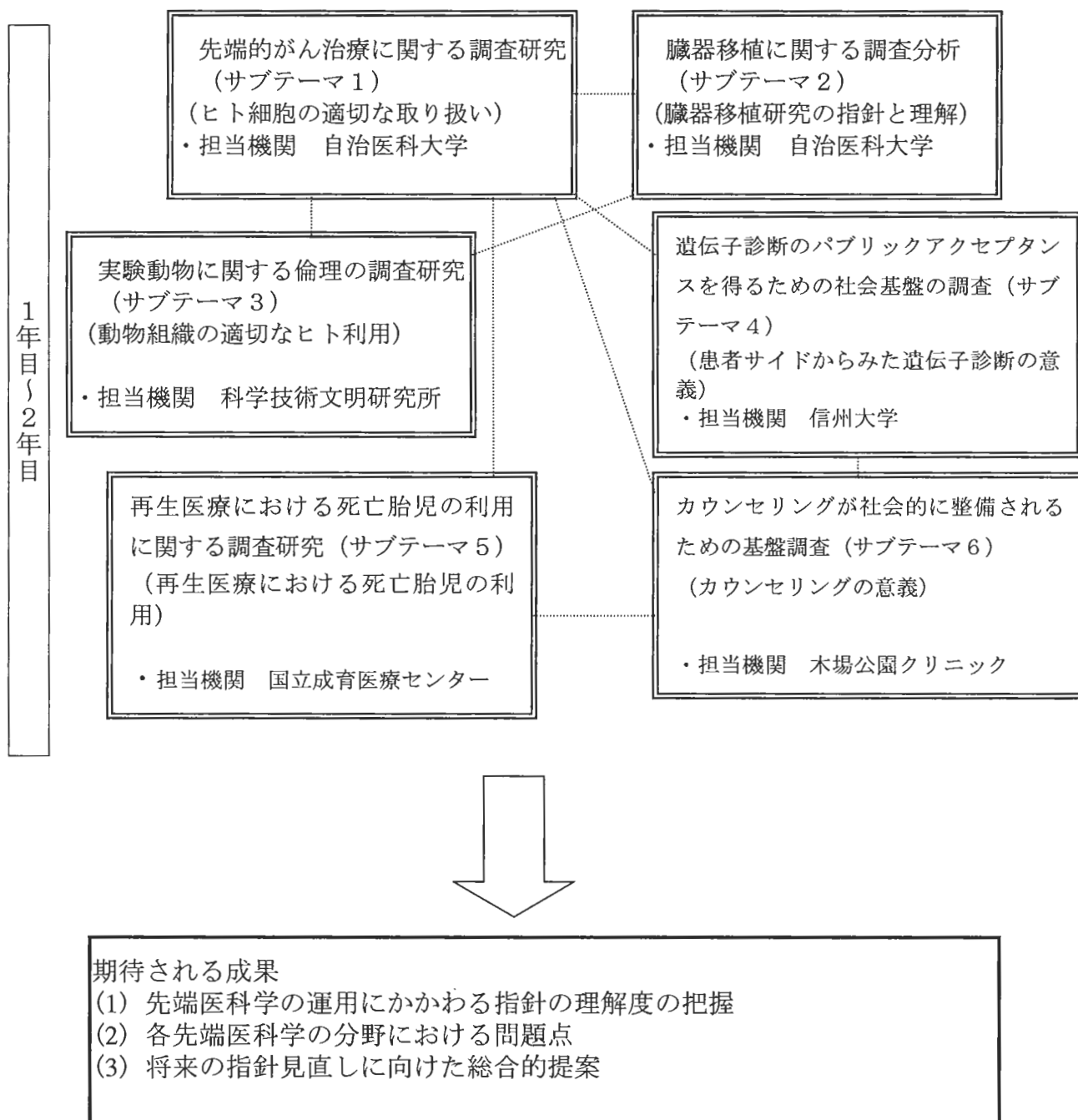
中核実施機関となる自治医科大学は、21世紀COEプログラム（先端医科学の地域医療への展開）の柱の一つとして、47都道府県の地域医療へのバイオエシックス普及を実践しており（小林）、本調査研究への基盤はすでに整備されている。本研究班では、遺伝カウンセラーや生命科学に対する倫理・社会学（信州大学、科学技術文明研究所）の立場からも意見調整を実施し、自治医科大学を起点したタスクフォースが、各分野の現状と問題点を抽出することとする。

### 調査研究の成果がもたらす利点

ヒトを対象とする先端医科学研究では大別して被験者保護と作業者の安全確保の2点から指針等が策定されているが、本研究は前者に関わる指針等を対象としている。これら指針等の策定は、専門家主導で内容が練られ、一般市民の意見、研究や医療現場からの意見はパブリックコメントとして許可されるのみで、基本構想には反映できていない弱点が指摘されている。本研究は、パブリックコメント募集方式ではなく各分野のタスクフォースが中心となり積極的に市民や現役の研究者に意見を求め、各分担者がそれぞれの分野の意見を集積するところに特色がある。これらの意見を将来の指針見直しに向けた総合的提案を行うことに大きな意義がある。

## 調査研究体制図

- 課題分類 「ライフサイエンスやナノテクノロジー等の先端科学  
技術が社会に与える影響の調査研究」
- 課題名 「 先端医科学の認知に向けた社会的基盤調査 」
- 代表者名 「 村上 孝 」
- 中核機関名 「 自治医科大学 」



# 課題：先端医科学の認知に向けた社会的基盤調査

## サブテーマ

## タスクフォースの構成

## 成果発表の方法

